和歌山大学教育学部附属小学校

第３・４学年音楽科授業構想シート

授業者　北川 真里菜

本実践の主張点	つくった旋律をプログラムして micro:bit を用いて鳴らすことで，よりよい音楽表現に近づけるために，プログラミング的思考を生かして音楽的な試行錯誤をしようとする探究的な姿が見られるであろう。

１．単元名　開いてびっくり！音楽のプレゼント ～micro:bit で音楽づくり～

２．３・４年Ｆ組の子ども

本学級は３年と４年の複式学級であるが，音楽科では３・４年の一斉授業形式で学習を進めている。これまで，２～４小節程度の短い旋律づくりを行い，旋律の上がり下がりによる曲想の変化や，音楽の終止感について学んできた。また，前単元においては反復と変化をつかった４小節のリズムづくりを行っている。micro:bit を使った経験はあるが，音楽を鳴らしたり，旋律をプログラムしたりする活動は本単元が初めてである。

３．何ができるようになるか

探究力	・ 曲想と音楽の構造などとの関わりに気付き，知識や技能を得たり活用したりしながら，思いや意図をもって音楽表現を工夫したり，楽曲を味わって聴いたりする力
省察性	・ 音楽的な見方・考え方を働かせて自己や他者の表現や聴き方を省みることで，調整・改善したり，その価値に気付いたりしながら，音楽表現や音楽鑑賞の質を高める力

４．何を学ぶのか

① 単元の目標

反復や変化などの音楽の仕組みをつかってまとまりのある音楽をつくることによって，旋律やリズムを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考える。

② 教材の価値

前時に分析する楽曲「ジングルベル」「赤鼻のトナカイ」の一部分は，前単元「手拍子とリズム」で学んだ「反復」や「変化」をつかった構成（図 1）でできており，音楽の仕組みや音楽の全体像を理解しやすい教材である。

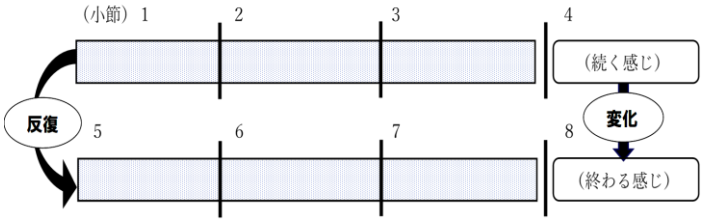

図１：つくる音楽の構成

本時では同じ構成をつかって，図１のような８小節の旋律をつくる。音楽が反復や変化を多用しながら展開されていることに気付き，繰り返すこと（反復処理）の楽しさ，違うパターンを用いること（条件分岐処理）などで生まれる音楽の変化の面白さを味わうことができる。

③ 単元の目標を達成するためのプログラミング

クリスマス会にて１・２年生を喜ばせるため，スピーカー内蔵の micro:bit を用い，開くと音楽が鳴るクリスマスカードを作る。８小節の音楽をつくる中で，音楽が「続く感じ」「終わる感じ」に着目し，つくった旋律をプログラムしながら音に出して確かめ，試行錯誤する姿が期待できる。

５．どのように学ぶのか

① 単元における授業づくりの「しかけ」

探究力を育む　主：主体　協：協働　活：活用	省察性を育む　気：気付く　決：決める　動：動く
主　１・２年生が喜ぶクリスマスカードを作るという目的意識をもたせることで，必要感をもって活動を行えるようにする。 協　ペアでひとつの音楽をつくることで，互いに意見を出し合い，協働できるようにする。 活　これまでの音楽づくりで学んだことを教師が掲示として残したり，意図的につなげて考えさせたりすることで，学んだことを活用してつくれるようにする。	気　micro:bit を用いて音を出すことで，つくった音楽を客観的に聴けるようにする。 決　旋律の動きやリズムを視覚的に捉えられるワークシートを使うことで，旋律の動きやリズムを思考判断の拠り所として，イメージに合った旋律をつくることができるようにする。 動　micro:bit を用いることで入力や修正，再生が容易になることから，自分のつくった音楽を省みながら，試行錯誤して思いや意図に合った音楽をつくれるようにする。

② 学習内容を理解し，資質・能力を育成するための学習過程

単元計画（全５時間）　本時５/５

特活（２時間）１・２年生にプレゼントするクリスマスカードを作ろう

時	めあて		学習内容	評価
1	１・２年生が喜ぶクリスマスカードを作ろう	micro:bit を使って，１・２年生がもっと喜ぶびっくりカードを作ろう	カードを開くとライトが光り，音楽が鳴るようにプログラムを考える。	主①
2		クリスマスソングの構成を探ろう	「ジングルベル」「赤鼻のトナカイ」を分析する。	知①
3		旋律のリズムをつくろう	反復と変化をつかって，８小節のリズムをつくる。	思①
4		１～３（５～７）小節目の旋律を，プログラムしながらつくろう	考えたリズムを基に，「ジングルベル」等と同じ構成で，１～３（５～７）小節目の旋律をつくる。	技②
5 本時		４小節目と８小節目の旋律を，プログラムしながら工夫してつくろう	４小節目が「続く感じ」，８小節目が「終わる感じ」になるように工夫して旋律をつくる。	思②

特活（１時間）もっと喜ぶクリスマスカードにして，１・２年生にプレゼントしよう

６．何が身に付いたか

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①曲想と，音楽の構造との関わりについて気付いている。 ②思いや意図を表現するために必要な，音楽の仕組みを用いて音楽をつくる技能を身に付けて音楽をつくっている。	①リズムの反復と変化を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら，リズムの組合せを工夫し，どのようにまとまりのあるリズムをつくるかについて思いや意図をもっている。 ②旋律やリズムの反復と変化を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら，４小節目と８小節目の旋律を工夫し，どのようにまとまりのある音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。	①進んで音楽に関わり，楽しんでプログラミングの活動に取り組んでいる。

和歌山大学教育学部附属小学校

音楽科学習指導本時案

授業者　北川 真里菜

日時：2020 年 12 月 18 日（金）第３校時（10：50～11：35）

対象：第３・４学年Ｆ組　16 人

本時の主張点	４小節目と８小節目の旋律をプログラムしながらつくることで,「反復」や「変化」の働きやその面白さに気付き，音楽が「続く感じ」「終わる感じ」に着目してまとまりのある音楽をつくろうと試行錯誤する探究的な姿につながるであろう。

１．本時の構想と学習課題について

前時までに８小節分のリズムと，１～３小節・５～７小節目の旋律をつくっておき，本時では，８小節の旋律のうち，４小節目と８小節目をつくる活動を行う（図１参照)。

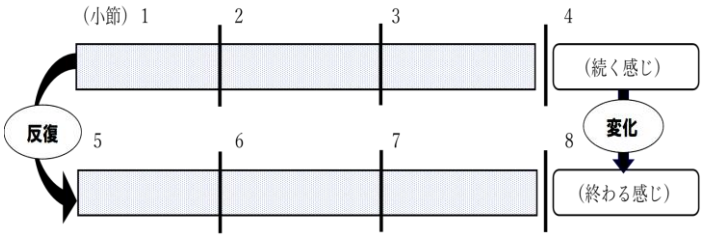

図１：つくる音楽の構成

４小節目と８小節目は同じリズムでつくるが，４小節目は音楽が「続く感じ」，８小節目は音楽が「終わる感じ」になるように旋律の上がり下がりを工夫してつくる必要がある。これまでに学習した，旋律の上がり下がりと曲想との関係や，「(ハ長調の場合）ドの音で終わるとしまって終わる」などといった知識を活用・発揮し，試行錯誤しながら旋律をつくろうとする姿を期待する。

２．本時における探究の質を高める場面と授業づくりの「しかけ」について

本時においてつくる旋律を４小節目と８小節目に限定することで，８小節という全体の音楽の流れの中での，音楽の持続感や終止感に着目させることができ，その違いを比べながら旋律づくりを行える。

また，micro:bit を使ってつくった旋律を鳴らすことで，即時に音を聴き修正を行うことができる。このような機器の入力・修整機能の容易さや，音楽の再現性という利点を利用し，より論理的な試行錯誤を行い，思いや意図をもって旋律づくりを行う子どもの姿へとつなげていきたい。

３．本時におけるプログラミング

開くと音楽が鳴るカードを作るために，①一定の明るさのときに，光センサーが働くようにする ②旋律をつくり，プログラムする ③光センサーが働くと，旋律が流れるようにする といった手順を経て，光センサーが明るさを感知し，明るくなったら動作するようにプログラムを作り，micro:bit に書き込む。

本時では，自分たちのつくった旋律をプログラムし，micro:bit を用いて鳴らすことで，よりイメージに近づけるために修正・改善を図ろうと試行錯誤する子どもの姿が見られるであろう。その際に着目する「旋律」や「リズム」などの「音楽を特徴づけている要素」や，「反復」や「変化」といった「音楽の仕組み」やその働きを軸に，プログラミング的思考を音楽づくりのための試行錯誤に生かしていく。

４．本時の目標

４小節目と８小節目の旋律を工夫し，思いや意図をもって８小節のまとまりのある音楽をつくることによって，音楽の持続感や終止感と旋律の特徴との関わりに気付く。

５．本時の展開

学習活動と予想される子どもの反応	留意点・評価
１．これまでの学習の振り返りと，本時のめあてを確認する。 ○ この間の時間には，カードを開いたら鳴る音楽の，１～３・５～７小節をつくったよ。 ○ 今日は，４小節目と８小節目をつくって micro:bit にプログラムしたい。 ○ ４小節目は続く感じ，８小節目は終わる感じにつくらなきゃ。	・ これまでの学習を振り返り，今後の学習を見通す中で，子どもが自ら本時のめあてを設定できるようにする。
４小節目と８小節目の旋律を，プログラムしながら工夫してつくろう	
２．ペアで旋律を考え，micro:bit にプログラムする。 ○ ４小節目は山形，８小節目は谷型と，正反対の旋律にしたらどうなるかな。 ○ 「歌のにじ」の時はドで終わったらしまって終わる感じがしたから，８小節目の最後はドにして一度鳴らしてみよう。 ○ プログラムして鳴らしてみたら，イメージとちがった。もう一回考えよう。 ３．本時の学習を振り返る。 ○ □□さんの作品は，最後の音だけちがうだけなのに，ちゃんと「続く感じ」「終わる感じ」を表現できていた。終わる音って大事だね。 ○ 旋律がだんだん上がっていくと，盛り上がって終わる感じがすることがわかった。 ○ もっと１・２年生が喜ぶカードになるように，こんなふうなプログラムも作ってみたい。	・ 旋律やリズムを視覚的に捉えられるワークシートを活用し，micro:bit で再生することで音に出して聴き，修正を加えていくようにする。 ・ 必要であれば，１～３・５～７小節の旋律も修正することも可とする。 ・ できあがったペアを取り上げ，４小節目と８小節目がどのように違うのかを全体で考える時間をとる。 思 旋律やリズムの反復と変化を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら，４小節目と８小節目の旋律を工夫し，どのようにまとまりのある音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。 ・同じようなプログラムが市販のバースデーカード等にも活用されていることや，プログラミングのよさや面白さに気付き，もっといろんなプログラムを作ってみたいという意欲を引き出す。